



# 祐介の目

No.160

大田祐介 (福山市議会議員)

多く、白馬岳や五竜岳等の眺めは素晴らしく、雪質やコース設定も申し分ない。それは日本人とて同じはずであり、なぜ日本人は、特に若者はこの大自然に抱かれた環境でウインタースポーツを楽しむことが無くなったのか不思議だ。

## スキーブーム

私が20代の頃は映画「私をスキーに連れてって」の影響が、スキーブームであった。皆、車の屋根にスキーキャリアを取り付け、仕事が終われば一目散にスキー場を目指す。グレンドには朝から晩までユーマンや広瀬香美の曲が流れ、土曜の夜はオールナイト営業というスキー場もあった。あのブームはなぜ去ったのか？どなたか検証して欲しい。

先日、久しぶりに長野県白馬村を訪れた。高校の同級生が「スキー合宿」を企画してくれ、アラ還の3人で八方尾根を一日中滑りまくった。同級生の多くはスキーを卒業してゴルフに移行しているが、我々は少数派であつてもスキーを続けようと誓い合った。しかし、周りを見れば外国人だらけであり、リフトの係員まで外国人だ。おかげでスキー場周辺のホテルやペンションも潤っている様子だ。確かに外国人を引き付ける要素は

北海道の二セコでは過剰なインバウンドが問題になっているが、インバウンドが期待できない広島県内のスキー場は廃業が続いている。県民の森はホテルやレストランを閉めて縮小営業、ドルフィンバレイ、スノーリゾート猫山など近郊のスキー場が閉める理由の一番は福山からの客の減少だろう。何か他のスポーツが流行っているのかと言えば、そうでもない。結局、スマホに熱中という事のようにだ。

振り返ると私が若い頃にはスマホが無くて良かったと言える。多くの若者がバイクや車やスキーといったレジャーに夢中になり、その道を極めようと「走り屋」になったり、雪を追い求めて各地に遠征したりしたものだ。「近頃の若い者は・・・」と五千年前から言われているそうだが、再度スキーブームが来た時こそ、景気が本当に回復した証拠と首を長くして待ちたい。